

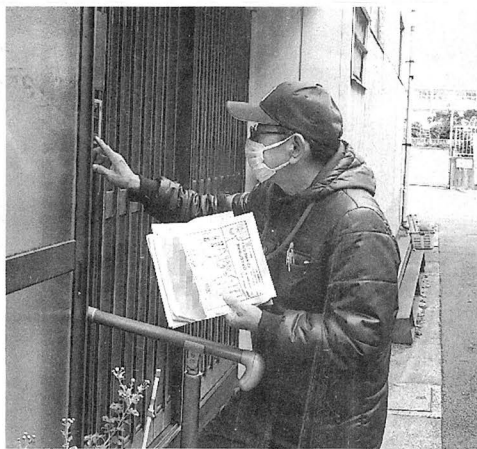
大人も子どもも居場所求め

「孤独と孤立」を考える

2021
衆院選

課題編①

中層団地が立ち並ぶ江戸川区の住宅街。25日、紺色のジャンパーを着た区職員の男性が、一軒の家のチャームを押し、



住宅街を巡回し、ひきこもりの実態調査への協力を依頼する区職員。25日、江戸川区

「その状態になつて何年ですか」……。質問は16項目。職員の男性は、この日、まだ回答がない世帯を一軒ずつ訪問し、調査への協力を依頼していた。

内閣府の推計では全国でひきこもり状態にある人は115万人。区内では、区が民生委員や福祉窓口を通じて約680人を把握しているが、「隠れた窮状を見つけて出す必要がある」と実態調査に乗り出した。「ひきこもりをはじめ、家庭内暴力、生活困窮などの課題は家庭の外からは見えにくい。いかに把握し、支援につなげるかがテーマだ」。

区生活支援課第一課の鈴木秀児課長は話す。困窮や孤立が深まれば、孤独死や、家庭内での親子共倒れにもなりかねない。危機感を抱かせる事件が最近、全国各地で相次ぐ。窓口で待つのではなく、福祉の側から出向く新たな試み。しかし、アンケートで得た情報を実際の支援につなげるには、人員確保も、職員の教育も急務だ。「肝心なのは、これまでも声をあげられなかった人と一緒に解決の糸口を探る。そのための一歩に」と

悩みを抱えた時の相談先

- いのちの電話
フリーダイヤル0120・783・556
- 生きづらびっと
LINE@yorisoi-chat
- チャイルドラインチャット
ホームページ (https://childline.or.jp/chat)
- 若者メンタルサポート協会
ホームページ
(http://www.wakamono-support.jp/)

鈴木さんはい。孤独は、子どもたちの間にも広がっている。「早起きして友だちと電

話でお話しして、午前中は買い物にも行ったことかな。高校2年の女子生徒がチャットに書き込んだ。「いいね」「よかったね」と、ほかの参加者が歓声を上げる。NPO法人・若者メンタルサポート協会(渋谷区)が運営する「オンライン居場所」というネット上のミートアップだ。「今日のグッド」と題して、その日あった喜びを紹介し合う。コロナ禍の昨年6月に開始。同NPO理事長の岡田沙織さんは「人と人とのつながりが失われ、子どもたちがさらに孤立してしまうことを懸念した」と意図を説明する。

自分の顔を画面に映さない子、代わりに好きな絵や漫画のキャラクターを表示する子、親に聞かれないように声を出さない子……。みんな協会の悩みや不安、生きづらさを相談してきた子どもたち。岡田さん自身、自殺未遂やDV被害、うつ病などの経験がある。孤独を感じる人からの相談を約20年受け続けた後、2015年、若者向けに協会を作った。ボランティアのスタッフ約40人が24時間・365日、全国の10代からLINEで相談を受ける。19年は1カ月あたり1万5千〜2万件だったが、今年は4万5千件に達する月もある。岡田さんが懸念するのは、親のストレスのほけ口になった子どもが、孤立化することだ。「居場所ややりとりを奪われ、私さえないくなればと思いつめてしまう子が多い」

国立成育医療研究センター 衆院選を機に社会の課題の現状を見つめ、そして考えた。以前から続くものの、コロナ禍で顕在化したもの……。初回は「孤独と孤立」を考えました。(高橋淳、砂押博雄)

社会で支え合う取り組みを

孤独や孤立の問題は、社会の姿容や構造的な問題と密接に関わっています。それがコロナ禍により深刻化、顕在化しました。

日本は「家族依存型の福祉国家」と言われ、家族の支え合いが強い社会でした。しかし、一人暮らしが急激に増え、未婚化も進むなど家族形態が大きく変わりました。地域や会社内で支え合う「地縁」や「社縁」といった共同体機能も弱体化しました。

国立社会保障・人口問題研究所の2017年の調査によれば、介護や看病の時に「頼れる人がいない」と回答した比率は、高齢の単身男女、現役世代の単身男性、ひ

日本福祉大・藤森克彦教授

とり親世帯で4割以上。会話の頻度をみると、「2週間に1回以下」が、高齢単身男性で15%、現役の単身男性で8%います。人は一人では生きていけません。頼れる家族がいなくても、社会の中で支え合うことが重要で、他者との関係性が乏しいとされる「孤立」の場合、生きる意欲が持てなくなったり、自己肯定感が低下したりする傾向がみられます。経済的に困窮しているもSOSを出せず、深刻化するケースも少なくありません。

政府は相談体制を強化し、ノウハウや情報を持つNPO法人などとの連携や助成の拡充を進める必要があります。(聞き手・砂押博雄)

一方、インターネットやSNSによるつながりの有効性は未知数ですが、人と人との関係性を維持する仕組みや仕掛けは今後ますます必要になってきます。